



・本日の議題

- ①工事の現況と今後の予定（専務）
- ②各現場状況報告（又は問題点）
- ③その他

【千葉県】佐倉チューリップフェスタ

毎年4月に佐倉ふるさと広場で開催される、関東最大級のフラワーイベント。オランダ風車を背景に、約80種類55万本ものチューリップが色鮮やかに咲き誇ります。

（注）安全大会の時刻は18：00（集合次第）～19：00とします。

その後は、自由参加としますので適時解散してください。

議題①：工事の現況と今後の予定

お疲れ様です。桜も終わり近頃は暑く感じる日が少しずつ目立ってきています。体が暑さに慣れていないこの時期は、それほど暑くない気温でも、熱中症や体調不良の原因になる可能性がありますので、水分補給や塩分補給を忘れずに体調の変化に気を掛け合い、現場での熱中症発生防止に努めてください。

現在、各現場では労働災害が無く、順調に進行しております。引き続き[よく整備や清掃が行き届いた現場]・[声の掛け合える明るい現場]・[危険作業の無い現場]を皆さん一人一人の心の中に、そこから協力関係業者さん全体にまで災害に強い現場づくりを構築し、ショキタとしての工事品質を高め続けるよう、ご協力をお願いいたします。

近頃、ニュース等で解体工事現場の事故災害報道をよく目にします。報道の物件によっては、取引先や当社と関係のある企業さんがその災害物件にかかわっていることもあります。そういった関係性を耳にすると、皆さんもそうだと思いますが、実際にその場にいるかのように考え、どんなタイミングだったのか、どんな日常の不安全行動から災害に繋がってしまったのかと考えていると思います。

発注者や元請け事業者は、我々解体施工会社のような専門業者（プロ集団）へ全体計画に伴う一部工事を依頼しています。特に、我々が計画に係るタイミングは、計画の一番最初にあるため、近隣住民の方への配慮の欠如や、災害等を起こしてしまえばその後の計画全体へ多大な影響を及ぼします。

また、状況によっては計画の遅延や風評被害に伴う金銭的賠償や社会的制裁を受けるケースも多々あり、無事故無災害での物件を確実に終えるよう、責任者の方を始め、その現場に係る方全員で考え、進化し続けるプロ集団であることを意識し、各物件に望んでいただくようお願い致します。

ご 安 全 に

5月の玉掛ワイヤーの点検職は…

青

です。

5月7日(水)

一斉点検

※ 当社としての基本的心得 ※

1. ヘルメット・ハーネス・安全靴等作業に適した**保護具適正使用の徹底**に努める「基本は毎日習慣に」
2. 場内の重機作業エリアとの**区画整備・安全通路区画整備の徹底**に努める「重機接触は即死亡災害」
3. 場内及び現場周辺道路等の**清掃を定期的に行い美化**に努める「きれいな現場では事故は起きない」
4. 壁倒し後のガラ受けや**犬走の掃除**を毎度忘れずに「そのまま噛んだら足場や近隣様所有物を破損してしまう」
5. **現場内無線連携**(段取り・合図・居場所確認)の確立化を徹底する「見えないところも見える」
6. 高所作業時、**ハーネスの2丁掛**の意味についてもう一度考えてみよう「掛替時に災害に隙を与えない」
7. 直近上位や元請様に、**年齢関係なく親切丁寧な会話**を誠意をもって対話する「良心は巡って帰ってくる」
8. ご近隣様へ、日頃から騒音振動など迷惑を掛けたいという意識を持ち、**挨拶や清掃で気持ちを返す**「気持ちは伝わる」
9. **重機配管カバー**は全部取付できているか?「今一度確認!」※破裂飛散 → 車、家等付着 → 清掃処置(損失大)
10. 解体工事を行う上で**必要な設備・資機材**はきちんと揃っているか?「足りなければ手配連絡を!」
11. **熱中症に向けて意識**を高めよう「対策や有事の対応をおさらいしよう!」
12. **有事(災害や事故)**が発生した場合は、必ず直近上位の現場責任者と会社へ連絡「本部にお客先から連絡が着て知ったのでは遅い=印象が大変悪い」
13. 工事車両の退場時、**キャビンの上や荷台の荷崩れしそうな資材は無い**かよく確認「第三者災害の危険」

5月度の重点目標(三項目)

1. ヘルメット・ハーネス・安全靴等作業に適した**保護具適正使用の徹底**に努める「基本は毎日習慣に」
5. **現場内無線連携**(段取り・合図・居場所確認)の確立化を徹底する「見えないところも見える」
11. **熱中症に向けて意識**を高めよう「対策や有事の対応をおさらいしよう!」

令和 6 年 職場における熱中症による死傷災害の発生状況
(令和 7 年 1 月 7 日時点速報値)

1 職場における熱中症による死傷者数の状況 (2015～2024 年)

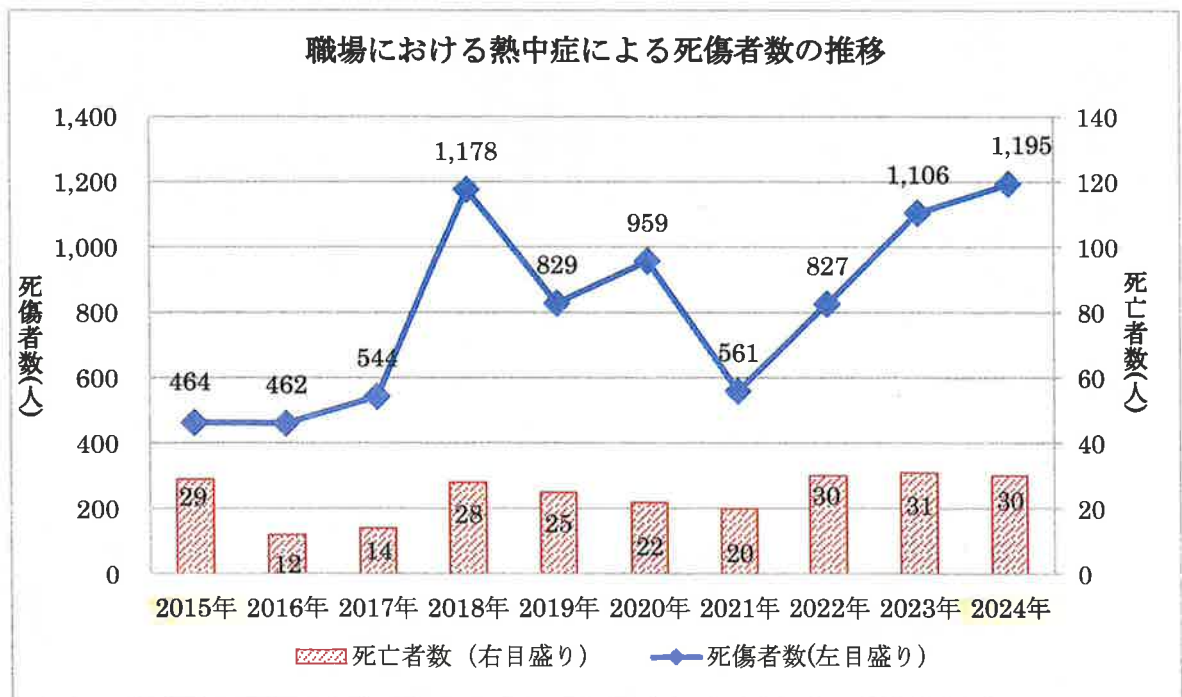
職場での熱中症による死亡者及び休業 4 日以上¹の業務上疾病者の数 (以下合わせて「死傷者数」という。)は、令和 6 年 (2024 年) に 1,195 人となった。うち死亡者数は 30 人となっている。

職場における熱中症による死傷者数の推移 (2015 年～2024 年) (人)

2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
464 (29)	462 (12)	544 (14)	1,178 (28)	829 (25)	959 (22)	561 (20)	827 (30)	1,106 (31)	1,195 (30)

※2024 年の件数は 2025 年 1 月 7 日時点の速報値である。

※ () 内の数値は死亡者数であり、死傷者数の内数である。





自分で
できる



7



つのこと

1

熱中症を正しく知ろう

1-1

(管理者編)



動画はQRから

1-2

(作業員編)



動画はQRから

2

応急手当と
水道水散布法



動画はQRから

3

暑さ指数の活用

3-1

測定
(管理者編)



動画はQRから

3-2

確認
(作業員編)



動画はQRから

4

暑熱順化



動画はQRから

5

水分塩分
同時補給



動画はQRから

6

プレクーリング



動画はQRから

7

健康管理



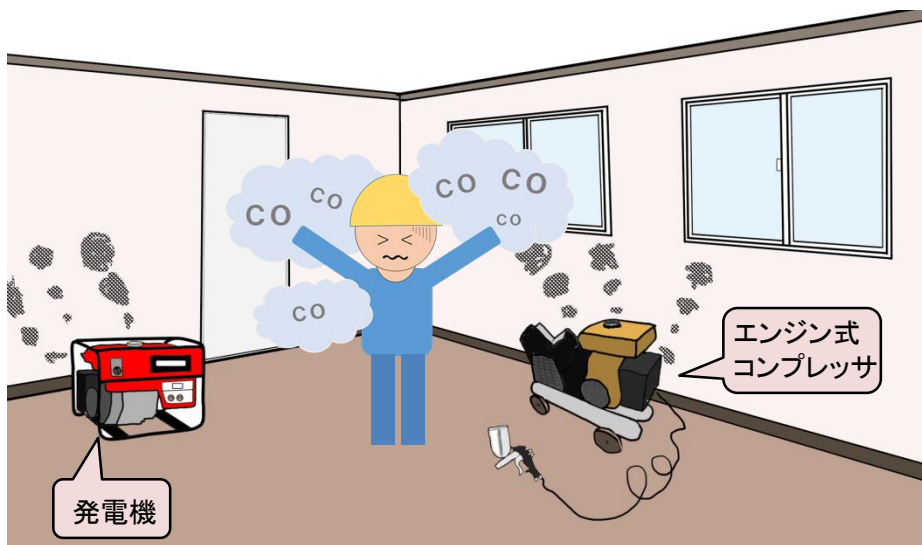
動画はQRから



建設業における一酸化炭素中毒を予防しましょう！

一酸化炭素中毒は、職場、家庭を問わず昔からある災害ですが、今でも災害が多発しています。建設業では、内燃機関(ガソリンエンジン等)を動力源とする小型機械を室内で使うことによる災害が発生しています。安全衛生対策を十分行って一酸化炭素中毒を防ぎましょう！

1. 内燃機関は換気を十分に行って使いましょう

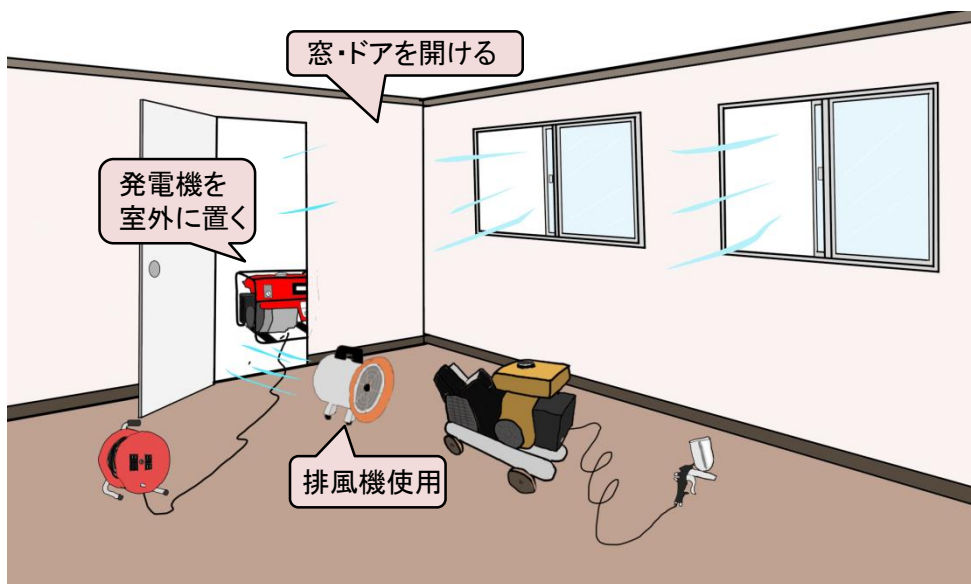
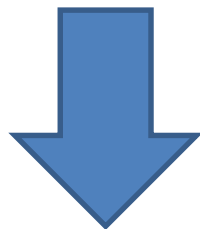


内燃機関(ガソリンエンジン等)を動力源とする小型機械(発電機、コンプレッサ等)を、通風が不十分な室内で使用して、一酸化炭素中毒が繰り返し発生しています。

一酸化炭素は無色無臭のため、ばく露しても気が付かずに、頭痛、吐き気、めまいを感じ、一酸化炭素中毒に気が付いたときには、意識がなくなり、死に至ることもあります。同じ場所で作業をしていた複数の方が同時に中毒になることも多くあります。

一酸化炭素中毒が発生するときの典型的な例

1. 近隣の騒音防止のため、室内に内燃機関を持ち込んで使ってしまった。
2. 塗料の飛散防止のため窓に養生をしている状態で、そのまま使ってしまった。
3. 冬季で寒かったため、窓・ドアを閉め切って使ってしまった。
4. 短時間で終わる作業だったので、閉め切って使ってしまった。



室内で内燃機関を使った小型機械は使わないことを原則としてください。

やむを得ず室内で内燃機関を使わなくてはならないときは換気を十分に行ってください。

このほか、チェックリスト(裏面)によりチェックを行って一酸化炭素中毒を予防してください。

あつてはならない無言の帰宅 死亡災害ゼロ！

2. 一酸化炭素中毒の発生状況

○事例1

解体中の木造2階建てアパートの1階でガソリンを燃料とする発電機を稼働させていたところ、2階にいた作業員2人が死亡し1人が重体となった(世田谷区2019年9月)。

○事例2

ビル内においてエンジン式コンプレッサを使用して吹き付け塗装作業を行っていたところ、3人の作業員が体調不良となり一酸化炭素中毒により搬送された。ビルは駅前の繁華街にあり、ビル内で営業している店舗もあったため、コンプレッサは室内に入れていた(渋谷区2019年10月)。

3. 一酸化炭素中毒について

○一酸化炭素(CO)中毒

COは無色・無臭でその存在が感知しにくい気体ですが、強い毒性を有しています。COは赤血球中のヘモグロビンと結合しやすく、このためCOを吸入すると、血液の酸素運搬能力がさがることによりCO中毒が起きます。CO中毒は、軽度の頭痛、吐き気等から始まり、その後、昏倒、致命傷に至るため、無意識のうちに被災するという特徴があります。

○一酸化炭素(CO)中毒対策にかかる規定等

・労働安全衛生規則第578条(内燃機関の使用禁止)

事業者は、抗、井筒、潜函、タンク又は船倉の内部その他の場所で、自然換気が不十分なところにおいては、内燃機関を有する機械を使用してはならない。ただし、当該内燃機関の排気ガスによる健康障害を防止するため当該場所を換気するときは、この限りでない。

・「建設業における一酸化炭素中毒予防のためのガイドラインの策定について(平成10年6月1日基発第329号の2)」

4. 一酸化炭素中毒予防のチェックリスト

作業前にチェック!	<input checked="" type="checkbox"/>
一酸化炭素の危険性・有害性について安全衛生教育をした。	<input type="checkbox"/>
新規の作業については、元請と下請であらかじめ危険有害性の検討をした。	<input type="checkbox"/>
作業方法を明確に示した作業手順書を作成して周知した。	<input type="checkbox"/>
内燃機関(ガソリンエンジン等)の点検・清掃を定期的実施した。	<input type="checkbox"/>
作業方法を検討し、内燃機関式の機械ではなく、電気式の機械で代用することとした。	<input type="checkbox"/>
内燃機関式の機械は室外に置いて、電気、エアなどを室外から引き込むことにした。	<input type="checkbox"/>

やむを得ず、内燃機関を動力源とする小型機械を室内で使うときは・・・、

内燃機関のCO排出量を把握し、継続的に外部に排気を行うことにした。	<input type="checkbox"/>
自然換気のため部屋の窓、ドアを開けることを確認した。	<input type="checkbox"/>
測定器を準備し、一酸化炭素の気中濃度を継続的に測定することとした。	<input type="checkbox"/>
必要に応じ、有効な呼吸用保護具を準備し、使用することとした。	<input type="checkbox"/>

安全衛生関係の資料の検索(インターネットからダウンロードできます。)

安全 パンプ	検索
職場のあんぜんサイト	検索